

土橋水と緑を守る会

市町村名 袋井市

地域	土橋地区一円		代表者名	鈴木康文	活動期間	平成20～24年度	
協定面積 (h a)	水田	25. 25	対象面積 (h a)	水田	25. 25	対象資源	数 量
	畑	1. 25		畑	1. 25	農用地	2. 65ha
	草地			草地		開水路	6. 4km
	計	26. 50		計	26. 50	パイプライン	
主要作物	水稻		参加団体	農業者 非農業者 部農会 土橋自治会 老人クラブ 大老会 中老会 祭青年 花の会 子供会 磐田用水東部土地改良区		ため池	
構成員	農業者	非農業者	計			農道	3. 7km
人 数	10	13	23			事業費(年)	1, 146, 000
主な活動内容	(基礎部分) ・遊休農地等の発生状況の把握 ・施設の点検 ・共同作業計画の策定 ・草刈り ・配水操作 他		(農地・水向上) ・施設の機能診断 ・診断結果の記録管理 ・年度活動計画の策定 ・きめ細やかな雑草対策 ・通水試験の実施 ・ゲート類等の保守管理の徹底 他		(農村環境向上) ・景観形成、生活環境保全計画の策定 ・広報活動 ・地域住民等との交流活動 ・農用地を活用した景観に配慮した作付け ・施設等の定期的な巡回点検、清掃		
地域の概要	本地区は、東名高速道路袋井インターの南に位置し、袋井バイパスが農用地を東西に横切る形で通っている。集落内には、長年の念願であった徳光用水の改修が、平成3年にパイプラインに改良され、水不足に苦慮していた本地区の水不足は解消された。						
目指すべき方向	用水の改修により、水不足が解消されたが、以後、旧用水路から水が消え、生きものの姿が見えなくなってしまった。又、住民から災害時などの緊急時対応に水源確保の必要性を危惧する意見がでてきた。このため、農地の大切さや用水に対する意識を再認識するため遊休農地を活用したビオトープづくりに取り組み地域資源を保全する活動に取り組むこととした。			施設の点検			
活動の感想	本年取り組んだビオトープ造成では、遊休農地を活用に年間を通じて水の確保がスムーズであることや造成作業がやり易い場所の条件で確保したが、冬季用水の確保がされていなかったため、磐田用水と試験的な形で通水することで了解を得た。しかし、大雨等で用水の断水があった際、ビオトープ内の水が枯れて、大量の生き物が浮いて水の確保の難しさを痛感した。						
課題	大雨洪水等の異常気象時の水確保を用水以外の応急的な確保ができるか。造成を完了した後のビオトープの維持管理を継続的に地域住民が参加してくれるのか。			きめ細やかな雑草対策			
抱負・コメント	地区内の農業者が減少して、農地が守れなくなって来ている今、農用地を活用して、農業の大切さや農地・農業用水の大切さを住民に理解してもらう活動を進めていきたい。自然の再生を目指したビオトープづくりに始まり、農用地を活用した景観作物の植栽などを進め、農業の振興を図るためのしくみづくりを目指す。						
				景観形成のための施設への植栽			